

佐々井 千佳さん (広島県福山市出身)  
2016 年度 2 次隊 青年海外協力隊  
派遣国：ラオス 職種：助産師  
2018 年 8 月 5 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 現地を尊重し助産指導

世界がもし 100 人の村だったら。私は小学生の時、自分が生きている日本とは違う世界の現実に衝撃を受けた。そして、その現実を自分の目で見て何を感じるか、また現地の人は何を感じ考え生きているのかを知りたくて今、青年海外協力隊としてラオスで生活している。

ラオスという国は日本人にはなじみが薄いかもかもしれないが、中国、ミャンマー、ベトナム、タイ、カンボジアと国境を接し、手付かずの自然が多く残る緑豊かな東南アジアの内陸国である。



分娩(ぶんべん)介助講習会に参加する助産師。特殊な装置を使って技術を磨いていく

私は、この国で最南端に位置するアタプー県の県病院の産婦人科で助産師として活動している。ここはラオス国内でも最貧困地域の一つといわれており、病院に来られず、村で、1 人で出産を迎える人も少なくない。日本とは文化も習慣も全く異なるこの地で、最初は衝撃の連続で開いた口がふさがらない、自分の今までの経験や大切にしてきたものが覆されるような出来事ばかりであった。

そんな中でも、日本の考えややり方を押し付けるのではなく、ラオス人が何を考え感じて、どうしたいのかを大切に、同僚、看護学生に対して助産技術や、知識習得に関する助言を行っている。

帰国まで 3 カ月。後にも先にも毎日こんなにもラオスという国、この国の医療の今後、そして日本のことを思い、考える日々は訪れないかもしれない。そんな貴重な日々を大切に過ごしていきたい。